

第1学年 国語科指導案

期 日 平成23年9月30日(木)公開授業1
授業学級 第1学年男子15名女子5名計20名
授業者 中居 ゆかり
授業場所 1年教室

1. 単元名 こえにだしてよもう「くじらぐも」(光村図書「ともだち」1年下)

2. 単元について

(1) 教材について

学習指導要領の国語科C読むことの(1)アに「語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。」ウに「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」とある。

本教材は、空に忽然と現れたくじらぐもに乗って子どもたちが空の旅を楽しむ物語である。体育の授業時間という身近な場面から、ふと幻想の世界に引き込まれ、想像の世界で存分に遊ぶというファンタジーの世界を楽しむことができる。また、場面や様子が理解しやすく、登場人物が自分たちと同じ一年生というのも共感する部分が大きく、登場人物と同化し、想像を膨らませながら読むことができるであろう。

(2) 児童について

本学級の児童は、明るく元気で、発言の意欲が高い児童が多い。その反面、他の児童の発言を静かに聞かなかったり、指名されないと、あきらめて授業への参加意欲が低下してしまう児童がいる。また、文章をすらすら読める児童もいるが、まだ拾い読みの児童もおり、個人差がある。

これまでに、「はなのみち」「おむすびころりん」「おおきなかぶ」で場面の様子を想像しながら読み、簡単な劇遊びをした。「ゆうだち」では、吹き出しに書き、登場人物の気持ちを考える活動を行ってきた。どの単元の活動も、語彙が乏しく、想像を広げられずにいる児童が多かったため、押さえない言葉を手がかりに考えさせたり、学び合いの場面で、想像豊かな考えの児童の発言を参考にさせたりしながら、想像を広げられるようにしてきた。また、説明文の「くちばし」では、順序や内容を考えながら読む活動をした。答えを見つけようと、意欲的であったが、言葉に着目できなかつたり、聞かれていることの意味を理解できなかつたりしている児童もいた。

(3) 指導について

本単元では、会話文のかぎ(「 」)を初めて押さえる単元である。子どもたちとくじらのおもしろくえがかれているやり取りや様子を、きちんととらえられるように、会話文に着目させながら読み進めていきたい。

確かに読み取る力を育てるための手立ては、子どもたちとくじら、どちらが言ったことなのか、したことなのか、会話文や行動に印をつけさせたり、視写をさせたりし、読みの手がかりとさせていく。また、会話文をどのように読んだらよいか工夫して読ませたり、動作化させたりすることによって、場面の様子や登場人物の心情をしっかりととらえさせ、さらに想像を広げ、読み深めさせたいと考える。

3. 単元の目標

- ◎場面の様子を想像し、その様子が表れるように声に出して読むことができる。
- 書いたものを読み合っ、よいところを見つけて感想を伝え合うことができる。
- ・かぎ「 」の使い方を理解することができる。

4. 評価規準

〔国語への関心・意欲・態度〕

○想像を広げて物語を楽しもうとしている。

〔読むこと〕

○だれが、何をしたか理解している。((1) ウ)

○登場人物の行動について感想を表している。((1) エ)

○好きなところを指摘したり音読したりしている。((1) ア)

〔書くこと〕

○書いたものを友達と読み合っで感想を伝えている。((1) オ)

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

○会話はかぎ(「 」)を使って書いてあることを知り句読点やかぎを正しく用いて書いている。
(イ (オ))

5. 単元の指導構想表・指導計画 (全11時間)・・・別紙

6. 本時の授業

(1) 本時の目標

くものくじらに飛び乗ろうとする子どもたちの気持ちを想像しながら音読する。

(2) 本時の指導について

だれが言った会話文なのか確かめ、子どもたちとくものくじらとのやり取りと、繰り返される子どもたちの言葉に着目させる。また、動作化させることにより、読み取りを確かなものにし、様子や気持ちが伝わる音読ができるようにしていく。

研究主題に関わって、確かに読み取る力を身に付けさせるために、次のような工夫をする。

ア 一人学び

〔押さえない言葉や文の明確化〕

・かぎ(「 」)の部分に印をつけ、子どもたちが言った言葉と、くものくじらが言った言葉を明確にする。

・子どもたちの「天までとどけ、一、二、三。」のかけ声と、くものくじらの「もったかく。もったかく。」が繰り返されていることを確かめる。

イ 学び合い

〔発問の精選・工夫〕

子どもたちは、どのようにかけ声をかけたかについて話し合う。その際、根拠を考えさせるような発問を行い、児童の考えを深めさせる。

(3) 具体の評価規準

観 点	十分満足	おおむね満足	努力を要する児童への支援
【読むこと】 くものくじらに飛び乗ろうとする子どもたちの気持ちを想像しながら音読する。	子どもたちとくじらぐもの会話文を見つけ、子どもたちの気持ちを根拠を明らかにして読み取り、音読に表すことができる。	子どもたちとくじらぐもの会話文を見つけ、子どもたちの気持ちが表れるような音読ができる。	だれが話した言葉なのか、前後の文から考えさせたり、同じ言葉を繰り返していることに着目させたりする。

(4) 本時の展開

段階	指導内容・学習活動	重要語句・文	指導上の留意点・評価
導入 ・ つかむ 5分	<p>1. 前時想起</p> <p>2. 課題把握</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>くものくじらにのるために、子どもたちは、どのようにかけごえをかけたのでしょうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなは、～。くじらもこたえました。 ・「ここへおいでよう。」・・・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の挿絵や、最後の文を提示し、想起させる。
展開 ・ 深める 37分	<p>1. 本時の学習場面の音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉読み <p>2. 場面の読み取り</p> <p><一人学び></p> <p>押さえない言葉や文の明確化</p> <p>(1) 子どもたちが言った部分と、くものくじらが言った部分を見つめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かぎ(「 」)の上に㊦(子どもたち)、㊧(くじら)という印をつける。 <p>(2) 子どもたちの会話の部分を3か所、音読する。</p> <p><学び合い></p> <p>発問の精選・工夫</p> <p>(2) 子どもたちの気持ちを考える。</p> <p>○子どもたちは、3回、同じかけ声をかけましたね。では、1回目と3回目の声のかけ方は、同じだったのでしょうか。違ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違う。 ・だんだん、声が大きくなっていく。 ・はじめはあまり飛べなかったから、もっと飛べるようにと思って、1回目よりも声が大きくなってきた。 ・くじらが応援してくれたから、声が大きくなってきた。 <p>○3回目は、どんなことを思いながらかけ声をかけたのでしょうか。吹き出しに書いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今度こそ、とびのるぞ。 ・もっと高くとぶぞ。 <p>(3) 場面の様子を動作化し、子どもたちの気持ちを表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動作化 	<ul style="list-style-type: none"> ・「天までとどけ、一、二、三。」 ・「もっとたかく。もっとたかく。」 ・「天までとどけ、一、二、三。」 ・「もっとたかく。もっとたかく。」 ・やっと三十センチぐらいです。 ・こんどは、五十センチぐらいとべました。 ・くじらがおうえんしました。 ・いきなり、かぜが、みんなを空へふきとばしました。 ・あつというまに、・・・くものくじらにのっていました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会話文の前後の「みんなは」や、「くじらが」の言葉に着目させる。 【読】だれが言った言葉か理解している。 ・違うだけでなく、どのように違うのか、また、どうして違うのか、理由も言わせる。 ・根拠を明らかにして考えられるように、地の文や、くじらの言葉にも着目させる。 ・1回目と2回目のかけ声のときの気持ちは全体で考えさせ、3回目は、それをもとに吹き出しに自分の考えを書けるようにする。 【読】くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちの気持ちを読み取っている。 ・子どもたちの役のグループ、地の文を読むグループ、くじらぐもの役をやる児童に分かれて、動作化させる。
終末	<p>3. まとめ</p> <p>本時の学習場面を、想像しながら</p>		

<p>・まとめる 3分</p>	<p>音読する。 ・役割読み</p>	<p>・子どもたちの会話文を児童に音読させ、そのほかは教師が読む。</p>
---------------------	------------------------	---------------------------------------

(5) 板書計画

くものくじら

子どもたち

① 「天までとどけ、一、二、三。」

② 「もつとたかく。もつとたかく。」
こんどは五十センチ

③ 「天までとどけ、一、二、三。」

④ 「もつとたかく。もつとたかく。」
やっとなんせんち

⑤ 「天までとどけ、一、二、三。」

めあて
くものくじらにのるために、子どもたちはどのようにかけこえをかけたでしょう。

くじらぐも
なかがわ
かきもと
りえこ
こうぞう
さく

5. <単元指導構想表>

	1	2	3	4 (本時)	5	6
目標	初発の感想を持ち、学習の見通しを持つことができる。	いつ、どこで、だれが、何をしたか確かめながら読み、想像を広げる。	子どもたちとくものくじらの会話文を、工夫しながら音読する。	くものくじらに飛び乗ろうとする子どもたちの気持ちを想像しながら音読する。	くものくじらに乗って旅をする子どもたちの気持ちを想像する。	くものくじらと別れるときの子どもたちの気持ちを想像する。
課題	くじらぐものおはなしで、すきなところをはっぴょうしましょう。	たいいくのじかんに、どんなことがあったのでしょうか。	みんなとくものくじらは、どんなことばをかけあったのでしょうか。	くものくじらにのるために、子どもたちは、どのようにかけごえをかけたのでしょうか。	くものくじらにのって、子どもたちはどんなことをはなしているのでしょうか。	子どもたちは、くものくじらに、どんなことをいって、おわかれしたのでしょうか。
一人学び		押さえない言葉や文の明確化 だれが何をしたか視写する。	押さえない言葉や文の明確化 だれが言った言葉なのか、会話文に印をつける。	押さえない言葉や文の明確化 だれが言った言葉なのか、会話文に印をつける。	一人学びの仕方を明示する 子どもたちの会話を想像し、吹き出しに書く。	一人学びの仕方を明示する 子どもたちの会話を想像し、吹き出しに書く。
学び合い	ねらいに迫る意見や考えの取り上げ方 好きな場面を発表し合う。	学び合いの形態の工夫 子どもたちとくものくじらがしたことを確かめ、動きを工夫する。	学び合いが深まるような板書の工夫 子どもたちとくものくじらとのやり取りの様子を想像しながら、音読する。	発問の精選・工夫 子どもたちの気持ちを想像しながら動きや音読を工夫する。	ねらいに迫る意見や考えの取り上げ方 想像して書いた吹き出しの言葉を発表し合う。	ねらいに迫る意見や考えの取り上げ方 想像して書いた吹き出しの言葉を発表し合う。
まとめ	登場人物の気持ちになって音読することを知り、学習の見通しを持つ。	動きや音読を工夫する。	工夫して音読する。	工夫して音読する。	工夫して音読する。	工夫して音読する。
評価基準	【関】想像を広げて、物語を楽しもうとしている。	【読】子どもたちやくものくじらの動きを想像し、工夫しながら音読している。	【読】子どもたちとくものくじらの会話文を、工夫しながら音読している。	【読】雲に飛び乗ろうとしている子どもたちの気持ちを読み取っている。	【読】くものくじらに乗って旅をする子どもたちの気持ちを想像している。	【読】くものくじらと別れるときの子どもたちの気持ちを想像している。

	7・8	9	10	11
目標	好きな場面を工夫して音読する。	会話文の書き方（「 」）を理解する。	くじらぐもに手紙を書く。	くじらぐもに書いた手紙を読み合い、感想を伝える。
課題	すきなばめんをえらんで、おんどくはっぴょうをしよう。	かぎ（「 」）のつかいかたをおぼえよう。	みんなをのせてくれたくじらぐもに、おてがみをかこう。	おともだちがかいたてがみをよんで、いいところをみつけよう。
一人学び		一人学びの仕方を明示する かぎを使った文を視写したり、短い文を作る。	一人学びの仕方を明示する 自分もくじらにのったつもりで、手紙を書く。	一人学びの仕方を明示する グループの友だちの手紙を読む。
学び合い	学び合いの形態の工夫 グループごとに、好きな場面を選んで発表し合う。			ねらいに迫る意見や考えの取り上げ方 友だちの手紙の良いところを発表し合う。
まとめ	友だちの音読を聞いて、思ったことを伝え合う。	話した言葉には「 」を使うことを確かめる。	手紙の書き方を確かめる。	良く書けている児童の手紙や、良いところを詳しく言えた児童を紹介する。
評価基準	【読】好きな場面を工夫して音読している。	【言】会話文の書き方（「 」）を理解している。	【書】くじらぐもに手紙を書いている。	【言】くじらぐもに書いた手紙を読み合い、感想を伝えている。